



## “よねやま”から広がる新しい世界 ⑦

# ミャンマーに広がるK I B O Hの輪



岡崎城南RC  
(第2760地区 愛知県)

カウンセラー  
太田 政信さん

### ミャンマーとの縁を感じて

若いころに訪れたミャンマーが実に印象的で、以来、ミャンマーに縁の深い人生を送っています。

1991年、知人に頼まれ、軍事政権下のミャンマーから来日する若者の身元保証人とホームステイを引き受けました。当時、一般の若者が日本に留学するのは極めて困難でしたが、その若者こそがキョーキョーモー君でした。

初対面の日、モー君が降り立ったJR名古屋駅を見て、「今日はお祭りですか?」と真顔で聞いてきたことをよく覚えています。彼は名古屋大学大学院修士課程に入学し、さらに博士課程へ進学しました。学費に困っていた彼が米山奨学生になれた時は、心から安堵したものでした。

### 希望をこめた国際奉仕活動

モー君は成績優秀で、最短の3年間で博士号を取得。その彼が、神奈川県で就職する前に母国へ一時帰国をするというので、会員有志で訪ねてみることにしました。その際、「ロータリーなんだから単なる観光では意味がない」との意見が出て、それがクラブのWCS（世界社会奉仕）活動へ発展していくことになるのです。

通学路の整備や教室の修理、図書館の建設などを行いました。特に5つの図書館「K I B O H（希望）」は学校だけでなく、地元の子どもたちにも利用されています。

これとは別に2001年から、有志4人で奨学金制度を作りました。ミャンマーでは成績上位者だけが医科大学へ進学できますが、お金がなくて進学を諦める優秀な学生を支援したいと考えたのです。モー君も寄付に協力

してくれました。この私設奨学金制度を、クラブ創立20周年を迎えた2008-09年度に、クラブの奨学金制度「奨学会K I B O H」としました。モノの援助から人の支援へ。会員たちの希望を託した奨学金でした。現在はさらに、ミャンマー人を運営の中心に据え、新たな団体へと変化しています。2011年からわれわれのクラブの一員となったモー君が中心となり、クラブの国際奉仕活動は、みんながサポートするものに発展してきています。

### 一人の米山奨学生から広がった人の輪

モー君とこれほど長い付き合いになるとは思っていませんでした。他にも米山奨学生の世話をしましたが、大抵は4~5年もたつと、付き合いが途切れてしまいます。誰が悪いというのではなく、付き合い続けることは元来、難しいのだと思います。長く関係を保つためには、カウンセラーもクラブの活動も、若い会員にどんどん任せるべきです。私はモー君と一番長い付き合いですが、私よりもっと深い付き合いをしている会員は多くいます。

モー君のおかげで、ミャンマーでの国際奉仕活動はクラブを代表する事業となりました。多くの会員と家族がミャンマーへ足を運び、支援の意味を考え、それぞれの友情を広げています。われわれの奨学金で巣立った学生が医師となり、地域医療に従事する姿を見るたび、果実の大きさを実感します。一人の米山奨学生から広がった大きな大きな人の輪に、心から感謝しています。



ミャンマーに建設した図書館を訪れて

人との出会いは、ロータリーの醍醐味の一つです。岡崎城南ロータリークラブ（RC）では、お世話をするこ  
 になった米山奨学生キョーキョーモーさんとの出会いから、ミャンマーでのWCS（世界社会奉仕）活動が始まりま  
 した。モノの援助から、やがて医学生を中心とする若者の人材育成へと形を変え、これまでに延べ100人以上の会員、  
 家族がミャンマーを訪れ、国籍や世代の枠を超えた交流の輪を広げています。



米山学友（岡崎城南RC会員）  
 京 幸一さん  
 （キョーキョーモー）

出身：ミャンマー  
 奨学期間：1997 - 99  
 学校名：名古屋大学大学院

## 大学閉鎖のため日本へ

1988年、私がヤンゴン大学大学院で修士論文を書き上げたその年に、学生による民主化運動を軍が制圧して軍事政権が始まり、大学は閉鎖されました。博士になることが夢だった私は留学を見据え、独学で日本語を勉強しつつ、3年間、大学の再開を待ちましたが、再開の見込みはありませんでした。

行き場をなくした私は、つてを頼って日本へ留学し、念願の博士課程に進学しました。しかし、お金の工面に困り、退学するしかないと思い込んでいた矢先、米山奨学金合格の知らせを受けたのです。これで自分も博士になれる！ エネルギーが足元から湧いてくるようで、がむしゃらに研究し、工学博士号を取得しました。

当時の私の目標は、母国で大学教授になることでしたが、軍事政権下のミャンマーに帰国することはかなわず、日本で就職。その後、日本国籍を取得しました。

## 教育が人材を育み国を変える

世話クラブの皆さんと本当に深く関わるようになったのは、奨学期間が終わってからです。私が博士号を取得できたお祝いの意味もあったのだと思いますが、クラブのWCS（世界社会奉仕）活動として母国を支援してくれることになったのです。私は、毎年現地に足を運ぶ皆さんの案内役、また、事業の橋渡し役として喜んで協力することにしました。

2014年、私が理事長となって「ミャンマーきぼう奨学会」を設立しました。世話クラブがつくり上げた「奨学会KIBOH」事業を、国内外のミャンマー人を主体に運営していくものです。今春、ミャンマー政府からも民間組織として正式に認可を受ける予定です。

国のために何ができるのか、国を変えるために何が本当に必要か。私が日本で学んだことは、教育こそ大切だということです。世話クラブや母国の皆さんが続けてきたミャンマーの人材育成を、私もロータリアンとして担い、発展させたいと思います。

### ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業、または“よねやまだより”に関するお問い合わせ・ご意見を、当奨学会まで、お寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



## モンゴル、タイの各米山学友会が総会を開催

3月1日、モンゴル・ウランバートル市内でモンゴル米山学友会の創立1周年記念総会が開かれ、学友と来賓の計36人が出席。活動報告や新会員紹介のほか、活躍した学友2人を「今年度最優秀会員」として表彰しました。また、創立時34人でスタートし、1年で会員数が50人を超えたことも報告されました。

同月15日には、タイ米山学友会がバンコク市内で総会を開催、学友と来賓計28人が出席し、創立3周年を祝いました。学友会創立に多大な尽力をしたビチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長が激励に駆けつけたほか、小沢一彦米山記念奨学会理事長も出席して、学友との交流を深めました。



創立1周年を迎えたモンゴル米山学友会